



「混ぜればごみ。分ければ資源」



— 分別で、ごみの未来が変わります。 —

令和6年3月15日

報道機関各位

環境政策課長

令和5年度「学生向け3R啓発リーフレット」の完成報告について

県の重点事業である「資源をきれいにまわそう」適正分別等推進事業の一環として、大学生が主体となり、この春から新生活を始める新入学生を対象に、ごみの分別・減量をはじめとする3Rの実践を「自分ごと」として促すための啓発リーフレットを作成しました。

このリーフレットは、弘前市内の大学生8名が大学の枠を越えて参加し、新入生に伝えたい内容を企画・検討のうえ作成したものです。

この度、リーフレットを作成した学生が、下記のとおり知事へ完成報告を行いますので、取材・報道方よろしくお願ひします。

記

- 日時 令和6年3月21日（木） 13:20～13:40
- 場所 第二応接室
- 来庁者 作成に携わった学生8名のうち4名  
弘前大学 2年 丸山 翔子 さん  
弘前大学 1年 根津 結季 さん  
柴田学園大学 3年 栗林 祐依 さん  
柴田学園大学 3年 成田 久紅葉 さん
- その他 学生たちへの取材については、報告終了後、南棟2階ホールにて対応します。

報道機関用提供資料（連絡先）		
担当課（室）	環境生活部 環境政策課 循環型社会推進グループ 副参事 安田 崇宏 主 査 工藤 綾子	
電話番号	内線	6 4 7 7
	直通	0 1 7 - 7 3 4 - 9 2 4 9
報道監	環境生活部 次長 白戸 明子	

## 令和5年度「学生向け3R啓発リーフレット」作成事業について

## 1 事業概要

- 県の重点事業である「資源をきれいにまわそう」適正分別等推進事業（R3～R5）の取組の一つとして、大学生が主体となり、新生活を始める新入学生に対して3Rの実践を「自分ごと」として促すための啓発リーフレットを作成したもの。
- 今年度は弘前市内の大学生8名が、大学の枠を越えて参加し、令和6年4月に同市内の大学・短大に入学する新入生向けのリーフレットを作成した。  
（＊ 昨年度（R4）は青森市内の大学生が作成）
- 完成した啓発リーフレットは、弘前市内の各大学・短大に送付し、入学時のオリエンテーション等の機会を活用して、新入学生に配付する予定。

## 2 作成過程

弘前市内の大学生8名が参加し、自主的にリーダーなどの役割分担やテーマや紙面の内容・構成を決定し、現地調査等を行いながらリーフレットを作成。

	今回出席	大学	学部	学科	学年	名前	検討会での役割
1	×	国立大学法人 弘前大学	医学部	医学科	5年	さくま たかや 佐久間 貴也	
2	×	国立大学法人 弘前大学	医学部	保健学科	3年	のりた みほ 乗田 未歩	
3	○	国立大学法人 弘前大学	理工学部	地球環境防災学科	2年	まるやま しょうこ 丸山 翔子	進行役
4	○	国立大学法人 弘前大学	農学生命科学部	分子生命科学科	1年	ねず ゆうき 根津 結季	
5	×	学校法人弘前学院 弘前学院大学	文学部	英語・英米文学科	3年	じん さやか 神 紗耶香	書記
6	×	学校法人弘前学院 弘前学院大学	文学部	日本語・日本文学科	3年	くどう そうま 工藤 颯万	
7	○	学校法人柴田学園 柴田学園大学	生活創生学部	健康栄養学科	3年	くりばやし ゆい 栗林 祐依	リーダー
8	○	学校法人柴田学園 柴田学園大学	生活創生学部	健康栄養学科	3年	なりた くれは 成田 久紅葉	

## (1) 調査・原稿作成

- 自分たちが出しているごみがどのように処理・リサイクルされているのかを知るため、古紙リサイクル事業者等の現地調査を実施。  
※現地調査先 株式会社伸和産業（弘前市）
- テーマごとに課題や解決方法を調べ、自身の学生生活と絡めながら、身近にごみ問題について関心を持ってもらえるよう掲載内容を検討。
- 大学の枠を越えて、活発な意見交換を繰り返し、原稿を作成。
- 現地調査や意見交換には、弘前市の担当者も同席し、同市のごみ出しルールの説明を行うなど、学生たちの活動をサポート。

## (2) スケジュール

	令和5年7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和6年1月	2月	3月	4月
県	弘前市・各大学へ説明		打ち合わせの調整				原稿作成等の校正・印刷・大学へ送付			
大学	学生呼びかけ・参加者決定		学生へ打合せ場所提供				新入生へ配布			
学生	役割決定		打合せ・調査・原稿作成 対面3回 (11/3・12/2・12/26)				校正			
					11/3 学生初顔合わせ ・現地調査		1/9 県へ 企画案提出			